

「レジデント初期研修マニュアル」

天理よろづ相談所病院総合診療教育部 今 中 孝 信 監修

東京大学教授

高 久 史 磨

今中孝信氏の監修による『レジデント初期研修マニュアル』を一読する機会を得た。この本は、レジデント経験者や指導医によって書かれたとのことであるが、基本的な診察法、基本的検査法、病室での基本的な手技、基本的治療法、特殊な検査、外科手術と術前術後管理、救急外来での小外科に関して要領の良い、しかも実際に役立つ記載がなされている。監修の今中氏が所属されている天理よろづ相談所病院は総合診療教育部をつくり、そこで研修医に対して幅広い研修を行っていることでよく知られている有名な教育病院であるが、今中氏はその総合診療教育部の責任者なので、まさにうってつけの方に監修していただいたと言ってよいであろう。

最近卒直後の臨床研修の間に、できるだけ幅広い研修を行うことの重要さが強調されている。医師の専門家志向が高まっており、それも医学の進歩に伴って必然的に起こってきた現象ということができるが、その傾向が強くなればなるほど、卒直後の初期研修の時期に幅広い基本的な知識や手技を修得することの重要さが痛感される。このことは大学病院の指導医の間でも広く認識されるようになってきているが、そのような初期研修のための具体的な方法や評価については、まだまとまった意見が出ていない。その意味でこの『レジデント初期研修マニュアル』は、初期研修の間に修得すべきことを明らかに示しており画期的な内容の本と言えるであろう。また数多く挿入

された「研修メモ」は、臨床の実地で役立ついろいろな事柄が、研修医の立場に立って書かれており非常に興味深く読ませていただいた。

臨床研修の本来の目的は、各科の専門家になる前に修得しておくべき各科共通の知識や手技、各種の治療法を研修することにあるため、このマニュアルにあることをすべて修得する必要があるのかという問題はあ。しかし、卒後臨床研修の行い方によっては、この本に書かれていることの一部を十分に身に付けるだけでもよいのではないかと考えられる。

この本は、記載が簡明なため本の大きさや厚さから考えられるよりも遙かに大量の情報がその中に含まれており、いろいろな意味で本書は研修医の教育、自己学習にとって極めて有用な本であると信じている。またこの本の中の基本的診察法についての記載は、医学部の高学年の臨床教育の際のテキストとしても非常に有用だと思う。

B6判変型 256頁 1989
定価 2,884円(税込) 〒 300

—医学書院 刊